



1年生を迎える会(4月26日)



モスクワ日本人学校

しらかば

第2号

モスクワ日本人学校
一人一人が輝く学校
笑顔あふれる学校

児童生徒数 116名

(E-mail)

school@mosnichi.com

(URL)

<http://www.mosnichi.com>

のびのびモス日っ子

「平成」から「令和」へ

校長 石川 賢

三十年前の「しらかば」の頁をめぐってみました。職員雑感に、次のような短歌や文が掲載されています。

【平成元年度（一九八九年度）】

○あのドーマ 灯る窓影 生活(なま)のペレストロイカに 望み託して

【平成二年度（一九九〇年度）】

○明日は何が起こるかわからない。ソ連社
会が急速に変わり始めたのです。歴史の
転換点に立ってあがいている巨象の姿
を見る思いです。

【平成三年度（一九九一年度）】

○朝六時から店の前には行列ができてい
る。早朝から駅前のレイノックには様々
な人が集まっている。そんな町が八月の
革命の日には静まり返っていた。ただ、
装甲車が中央に向かう地響きだけが聞
こえていた。

【平成四年度（一九九二年度）】

○激動の 中で迎えた 二十五周年
○突然の 戦車のひびき クーデター
○物価高 月々かわる ルーブル給与

ソビエト連邦消滅に至る激動の中で「平成」がスタートした頃の息遣いが聞こえてきそうです。

「平成」は、「国の内外、天地ともに平和が達成される」ことを願って一九八九年一月八日に制定されました。以来、一万一千日を超える日々を積み重ねてきた時代です。しかし、大きな自然災害、テロや戦争で犠牲になった多くの方々、その一人一人の人生を思えば、「平和が達成された」とは決して言えません。ただ、それだけに、人々が互いを思いやり、前向きに生きるこの意味と大切さを教えてくれた時代でもありました。全校朝会では講話の結びとして、「令和」の時代に活躍するのは、今モス日で学ぶ子どもたち一人一人であることを確認しました。そして、新時代を切り拓くために求められるのは「考える力」だと話しました。